

計画段階評価結果一覧

【成田国際空港B滑走路延伸及びC滑走路増設事業】

| 実施箇所 実施主体 | 該当基準 | 解決すべき課題等 | 達成すべき 政策目標 | 複数案との比較 | 対応方針 | 担当課 (担当課長名) |
|---------------------------------------|-----------------------------|---|--|--|--|---|
| 成田国際空港 (千葉県) 成田国際空港 株式会社 | 調査段階、構想段階において複数案の比較・評価を実施済み | ・航空需要予測によると、首都圏空港の発着回数は2020年代前半に発着容量を超過する見込み。 ・更なるインバウンド政策の推進やLCCによる新規需要創出によっては、更に需要が上向きになる可能性があり、航空需要に対応できない恐れ。 | ①産業・都市の国際競争力強化 ②訪日外国人の増加への対応 ③日本全国の地域活性化 | <p>【案1】 滑走路増設(C滑走路)・既存滑走路(B滑走路)延伸案 <C滑走路2,700m、B滑走路3,500m></p> ①滑走路処理能力：50万回/年・98回/時 ②滑走路の運用方法：B滑走路(出発専用)・C滑走路(到着専用) ③運用の効率性(航空機の地上走行距離(平均))：約4.1もしくは4.4km/機 ④地上走行距離に伴う利用者コスト(時間価値や燃料費、現状との比較)： -15億円/年もしくは+45億円/年 ⑤航空機騒音：C滑走路はB滑走路の東側に距離をおいて整備されるため、空港の東方向に騒音の増加領域が発生 ⑥自然環境への影響：水質・水文環境・動植物・生態系等について、各項目に応じた環境配慮を適切に実施することにより、重大な影響の回避または低減が可能 ⑦工事費：約1,000～1,200億円程度(滑走路及び滑走路に付随する誘導路のみの用地取得費・整備費のみ) ⑧工事着手後の工事期間：3～4年程度(地域との合意、用地交渉、環境アセスメントに必要な期間を除く) <p>【案2】 滑走路増設(C滑走路)・既存滑走路(B滑走路)延伸案 <C滑走路3,500m、B滑走路3,500m></p> ①滑走路処理能力：50万回/年・98回/時 ②滑走路の運用方法：B滑走路(北風時：出発専用、南風時：到着専用) C滑走路(北風時：到着専用、南風時：出発専用) ③運用の効率性(航空機の地上走行距離(平均))：約2.8もしくは2.9km/機 ④地上走行距離に伴う利用者コスト(時間価値や燃料費、現状との比較)： -160億円/年もしくは-175億円/年 ⑤航空機騒音：C滑走路はB滑走路の南延長線の上に近い東側に整備されるため、B滑走路の東方向での騒音増加領域の発生は少ないが、南北方向に騒音増加領域が発生 航空機の地上走行距離が短いことから、案1に比べて騒音影響が軽減 ⑥自然環境への影響：水質・水文環境・動植物・生態系等について、各項目に応じた環境配慮を適切に実施することにより、重大な影響の回避または低減が可能 航空機の地上走行距離が短いことから、案1に比べてCO2排出量が低減 ⑦工事費：約1,000～1,200億円程度(滑走路及び滑走路に付随する誘導路のみの用地取得費・整備費のみ) ⑧工事着手後の工事期間：3～4年程度(地域との合意、用地交渉、環境アセスメントに必要な期間を除く) | [案2]を選定 (理由) 事業費、空港の競争力強化(利便性)、騒音影響、自然環境への影響を比較し、[案2]が優位とされた。 また、環境影響評価法に基づく配慮書手続きにおいて住民から意見を聴取するとともに、住民説明会を200回以上開催し説明を重ねた結果、四者協議会(国、千葉県、空港周辺9市町、成田国際空港株式会社)において[案2]で実施することが合意された。 | 航空局 航空ネットワーク部 首都圏空港課 (課長 鎌本浩司) |